

科学研究費助成事業 研究成果報告書



令和 元年 9 月 2 日現在

機関番号：34404

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）

研究期間：2016～2018

課題番号：15KK0140

研究課題名（和文）職業・資格横断的な高度専門職の分類およびその経営管理モデルの研究（国際共同研究強化）

研究課題名（英文）Classification of high profession and study of the business management model (Fostering Joint International Research)

研究代表者

三島 重顕 (MISHIMA, SHIGEAKI)

大阪経済大学・経営学部・准教授

研究者番号：60454930

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 9,400,000円

渡航期間：12ヶ月

研究成果の概要（和文）：日英両国は、高齢化に伴い薬局における種々のサービスの需要が急増しているが、一般論として、英国の薬局薬剤師の方が医療の専門家として臨床業務に携わる機会が多い。本研究では「専門能力の発揮機会」と「職務満足」の関係性を質的調査から探求した。

研究の結果、上記2つの間には強い相関関係があることが明らかとなった。特に、患者に対する臨床業務、他の医療専門家との協同の臨床業務が強い職務満足を生むことが判明した。しかし、薬剤師のプロフェッショナリズムについて、患者や医師等から適切な敬意が払われない場合、これらの業務も職務満足を生むものとはならなかった。現在、研究成果を国際学術誌に投稿する手続きを進めている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

先行研究によれば、薬局薬剤師の臨床業務を適切な仕方で増やし、彼らの職務満足を高めれば、調剤ミスが減少し、患者の満足度が上がり、長期的には医療費の適正化に資する。また、離職が減少し、薬局企業の生産性も向上する。

本研究では、薬剤師の職務満足を高める業務ならびにその必要条件を明らかにした。すなわち、上述の～の実現に貢献する研究成果であると言える。高齢化に伴う医療費の急増、少子化に伴う生産年齢人口の減少に直面する我が国では、非常に意味のある研究成果であると考えられる。

研究成果の概要（英文）：Due partly to an aging population, the needs for pharmaceutical service in community pharmacy have increased in Japan and England. Japanese community pharmacist's main role is to handle many prescriptions as much as possible. But English community pharmacy is most first access place for patients without prescription. This means, English ones have much Opportunities to Demonstrate Expertise(ODE) as a profession. The principal aim of this study was to identify the relevance between ODE and job satisfaction.

The results of the study, the necessary conditions of making for job satisfaction in community setting are (1)to increase much ODE which has contact with patient and/or other healthcare profession, (2)to be respected their professionalism from others. In terms of relevant of ODE and job satisfaction, although job satisfaction is strongly associated with ODE, in the cases of lacking an appropriate respect from others, it could not provide job satisfaction.

研究分野：経営学

キーワード：Community Pharmacy Pharmacist ODE Job Satisfaction

1. 研究開始当初の背景

高齢化に伴う医療費の増加を抑制するため、今後、医療人としての薬局薬剤師の役割が拡大していくことが予想される。しかし現状では、我が国の薬剤師は調剤作業を主業務としているケースが多く、その専門性が十分に発揮されているとは言い難い。本研究では、高齢化のため、日英両国で薬学的な需要・支出が増加している、薬局に関する政策の方向性が酷似している、英国の薬剤師の役割拡大が日本を大きく先行している、市場の寡占化においても英国が日本を先行している、という4つの理由から、医療人として活躍する薬剤師の事例を英国に求め、日英比較研究を行った。本研究によって我が国の今後の薬局政策の方向性に示唆を得たい、というのが研究当初の背景であった。

2. 研究の目的

本研究では、薬剤師が専門性を発揮していると考えられる業務を抽出すること、薬剤師に職務満足をもたらす業務を抽出すること、「専門能力の発揮機会」(**Opportunities to Demonstrate Expertise**)(**ODE**)と「職務満足」(**Job Satisfaction**)との関係性を明らかにすること、我が国の薬局政策のインプリケーションを提示すること、の4つが研究の目的とされた。

3. 研究の方法

研究を開始するにあたり、研究倫理委員会(**University College London Ethics Committee**)から研究内容・方法等に関して承認を得る必要があった。そのためには、先行研究・研究内容に関する詳細、被験者のリクルート方法、研究内容や謝礼に関する被験者への説明書類(カバーレター、リーフレット、同意書、領収書)、アンケートやインタビュー内容の詳細、調査スケジュール、インタビューの主な実施場所ならびに研究者・被験者双方の安全確保に関する配慮、インタビュー中に緊急事態が発生した場合の対処法、収集したデータの管理方法、研究成果に被験者の個人情報を書けない誓約書などの書類の提出が求められた。同委員会からは、**2016年9月15日**に承認を得た(**Ethics approval & UCL Project ID number: 9635/001**)。

本研究では、二段階の調査方法が採用された。第一段階では「質問票」による調査が、第二段階では「インタビュー調査」が実施された。質問票にリストアップされた薬局業務は、英国の**National Health Service (NHS)**の“**NHS Community Pharmacy services – a summary**”(PSNC 2013)をベースに採択された。その後、日英両国の薬局で勤務経験を持つ薬剤師2名、ならびに中東の薬局で勤務経験を持つ**UCL**所属の薬剤師1名を対象にパイロット調査が実施され、数点の修正が施された。

被験者の選定は、日本では大手薬局チェーンの広報部や経営企画室ならびに日本薬剤師会の協力を受けて、英国では**Royal Pharmaceutical Society**の協力のもと、候補者に対してカバーレター、リーフレット、同意書、質問票がeメールにて送られ、それらを一読して被験者になることに同意した薬局薬剤師を研究の対象とした。また、性別、年齢、勤務先、勤務地等の偏りが生じないよう、被験者は慎重に選出された。

被験者には事前に質問票に答えてもらったうえで、インタビュー調査を実施した。その内容は音声データとして録音され、匿名処理後、日本のデータは研究者がテープ起こしを行い、英国のデータは専門業者にテープ起こしを依頼した。その後、文章データは**NVivo10**を使用してコード化され、共同研究者ら(**University College London School of Pharmacy**に所属する英国人研究者2名、日本人研究者1名)によって、各コードの確認・修正が複数回実施された。

4. 研究成果

被験者数は、日本で 13 名、英国で 18 名であった。第一段階となる質問票の調査結果は図表 1 の通りである。なお、Q 1 はリッカートの 5 ポイント・スケールの結果であり、Q 2 から Q 5 までの単位はパーセント (%) である。Q 1 から Q 5 までの質問内容は以下の通りである。

- ・ Q1 asked pharmacists about perceived frequency for each operation.
- ・ Q2-1 asked them which operations were perceived as an ODE.
- ・ Q2-2 asked them if obstacles were removed, which operations could be ODE.
- ・ Q3 asked them which operations could not be ODE.
- ・ Q4-1 asked them which operations provide job satisfaction.
- ・ Q4-2 asked them which operations gave rise job dissatisfaction.
- ・ Q5 asked them which operations should be increased and decreased.

図表 1 : 質問票の結果

Operation	Q1		Q2				Q3		Q4				Q5			
	JPN	ENG	JPN	ENG	JPN	ENG	JPN	ENG	JPN	ENG	JPN	ENG	In	De	JPN	ENG
Over-the-Counter (OTC) Sales																
・ Selling General Sale List Medicines	3.46	3.94	53.9	61.1	7.7	22.2	15.4	16.7	23.1	44.4	15.4	27.8	38.5	27.8	15.4	22.2
・ Selling Pharmacy Medicines (P)	3.54	4.22	84.6	88.9	7.7	22.2	7.7	11.1	46.2	77.8	0.0	16.7	46.2	66.7	7.7	5.0
Prescription																
・ Checking Prescription	4.54	4.50	92.3	72.2	0.0	27.8	0.0	5.6	23.1	38.9	7.7	22.2	7.7	22.2	0.0	22.2
・ Prescription Question to Prescriber	4.30	3.50	92.3	77.8	15.4	22.2	7.7	0.0	46.2	61.1	30.8	5.6	46.2	50.0	7.7	0.0
・ Repeat Dispensing	N/A	3.83	-	44.4	53.9	27.8	-	11.1	-	22.2	-	38.9	23.1	38.9	0.0	22.2
・ Dispensing Prescription Only Medicines (POM)	4.54	4.39	7.7	72.2	0.0	22.2	30.8	5.6	0.0	38.9	23.1	16.7	7.7	33.3	76.9	11.1
・ Prescription Intervention Service	4.46	3.00	84.6	72.2	0.0	22.2	7.7	5.6	61.5	61.1	0.0	5.6	61.5	61.1	0.0	0.0
・ Disposal of Unwanted POM (at Counter)	N/A	3.22	-	5.6	30.8	27.8	-	27.8	-	11.1	-	27.8	23.1	22.2	0.0	38.9
Consultation																
・ Medicines Use Review (MUR)	4.54	4.50	76.9	88.9	0.0	33.3	7.7	11.1	38.5	72.2	30.8	33.3	15.4	55.6	15.4	16.7
・ New Medicine Service (NMS)	4.69	3.50	92.3	88.9	0.0	22.2	0.0	5.6	53.9	66.7	0.0	11.1	23.1	61.1	0.0	16.7
・ Prescriptions Optimisation	4.62	3.83	76.9	72.2	0.0	27.8	0.0	16.7	46.2	83.3	0.0	11.1	7.7	83.3	0.0	0.0
・ Support for Self-Care	3.54	4.39	46.2	83.3	15.4	33.3	15.4	11.1	15.4	61.1	7.7	22.2	30.8	66.7	0.0	0.0
Promotion of Healthy Lifestyle																
・ Support Smoking Cessation	2.46	1.89	23.1	50.0	0.0	44.4	38.5	22.2	15.4	50.0	7.7	11.1	23.1	55.6	0.0	11.1
・ Give Advice about Chronic disease (e.g. High Blood P)	4.00	3.89	53.9	77.8	7.7	38.9	7.7	16.7	15.4	66.7	15.4	11.1	38.5	11.1	0.0	0.0
・ Give Advice about Weight	3.08	3.39	38.5	50.0	7.7	38.9	23.1	27.8	7.7	50.0	15.4	16.7	7.7	66.7	7.7	5.6
Others																
・ Home-Visit Care Service	3.54	1.44	84.6	27.8	0.0	44.4	0.0	27.8	53.5	33.3	7.7	11.1	46.2	55.6	0.0	16.7
・ Disposal of Unused POM at Home	2.85	1.33	23.1	11.1	15.4	27.8	15.4	33.3	15.4	0.0	15.4	33.3	46.2	11.1	0.0	50.0
・ Flu Vaccination	N/A	3.61	-	55.6	23.1	33.3	-	16.7	-	55.6	-	11.1	7.7	66.7	-	5.6
・ Supervision of Methadone and Buprenorphine	N/A	3.16	-	55.6	7.7	16.7	-	5.6	-	27.8	-	11.1	0.0	50.0	-	11.1
・ Emergency Hormonal Contraception	N/A	2.83	-	66.7	7.7	27.8	-	11.1	-	50.0	-	5.6	0.0	66.7	-	0.0

(資料出所) 筆者が作成

第二段階となるインタビュー調査は、各被験者の質問票の結果の理由を尋ねる仕方で、半構造化面接という方法で実施された。紙面上、インタビュー調査の結果の掲載は割愛するが、これら二段階の調査の結果、本研究の目的に対して、図表 2 のような結果が得られた(は ODE の枠内の各業務、 は Job Satisfaction の枠内の業務、 は Job Satisfaction をもたらず業務がすべて ODE の枠内にあること、によって示されている)。要約すれば、薬局薬剤師に職務満足をもたらすのは、(1) 同僚や他の医療機関の専門家と接触のある臨床業務、(2) 患者との接触のある臨床業務であり、「専門能力の発揮機会」(ODE) と「職務満足」には強い相関関係が見受けられた。ただし、「疑義照会」(Prescription Question to Prescriber) や「長期使用処方薬の指導」(Medicines Use Review (MUR)) などの業務において、他の医療専門家や患者が薬剤師のプロフェッショナリズムに相応しい敬意を示さない場合、本来は職務満足の源泉となるこれらの臨床業務は不満足を生むものになってしまうことが判明した。

図表 2 : 「専門能力の発揮機会」と「職務満足」をもたらす業務と両者の関係性

ODE (Japan)	ODE (England)
<ul style="list-style-type: none"> ▪ Checking Prescription 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Checking Prescription ▪ Dispensing Prescription Only Medicine (POM)
<p>Job Satisfaction</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ Selling Pharmacy Medicines ▪ Prescription Intervention Service ▪ New Medicine Service (NMS) ▪ Prescription Optimisation ▪ Home-Visit Care Service 	<p>Job Satisfaction</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ Selling Pharmacy Medicines ▪ Prescription Question to Prescriber ▪ Prescription Intervention Service ▪ New Medicine Service (NMS) ▪ Prescription Optimisation ▪ Support for Self-Care ▪ Give Advice about Chronic Disease
<ul style="list-style-type: none"> ▪ Prescription Question to Prescriber ▪ Medicines Use Review (MUR) 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Medicines Use Review (MUR)
<p>Job Dissatisfaction</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Repeat Dispensing ▪ Disposal of Unused POM at Home <p>Job Dissatisfaction</p>

(資料出所) 筆者が作成

上述の結果から、本研究の4つ目の目的、我が国の薬局政策のインプリケーションを提示することが可能となる。すなわち、我が国における薬局政策の今後の方向性は、日本では「専門能力の発揮機会」とすら認識されていない、しかし現状では薬局薬剤師の主業務となっている「調剤業務」(**Dispensing Prescription Only Medicines**)から薬剤師を解放し、その他の臨床業務により多くの時間と労力を用いることができるようにすることである。この意味で、**2019**年に厚生労働省が通達した、いわゆる「**0402**通知」は的を射たものであると言える。加えて、医学部学生に薬剤師のプロフェッショナリズムを尊重するように教育すべき点も指摘したい。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計1件)

三島重顕、「チェーン薬局に勤務するエリアマネジャーの経営管理に関する一考察」、大阪経大論集、第70巻第2号、pp.71-82(査読無し)、**2019**。

http://www.i-repository.net/il/meta_pub/G0000031Repository

[学会発表](計2件)

Shigeaki Mishima, “**Job satisfaction in Japanese community pharmacy**”, **4th Annual International Conference on Public Health, 2018**.

三島重顕、「調剤薬局における『専門能力の発揮機会』と『職務満足』の関係性—日英比較研究」、第37回日本社会薬学会全国大会、**2018**。

6. 研究組織

[主たる渡航先の主たる海外共同研究者]

研究協力者氏名：**Felicity Smith**

所属研究機関名：**University College London**

部局名：**Practice & Policy, School of Pharmacy**

職名：**Professor**

研究協力者氏名：**Ian Bates**

所属研究機関名：**University College London**

部局名：**Practice & Policy, School of Pharmacy**

職名：**Professor**

研究協力者氏名：**Naoko Arakawa**

所属研究機関名：**The University of Nottingham**

部局名：**International Pharmacy, Faculty of Science**

職名：**Assistant Professor**

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。